

令和3・4年度 長崎県教育委員会指定

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業

研究紀要

【研究主題】

『ふるさと大島を担う実践力の育成』

～他者との協働を通して、ふるさとのために行動し、主体的に未来を切り拓こうとする生徒の育成～



令和4年12月16日（金）

平戸市立大島中学校

はじめに

本日は、本校の研究発表会にご参会いただき、ありがとうございます。

令和3年度から、長崎県教育委員会の研究指定を受け、「ふるさと大島を担う実践力の育成～他者との協働を通して、ふるさとのために行動し、主体的に未来を切り拓こうとする生徒の育成～」に取り組みました。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止との攻防戦。行動制限を設けないという国の方針により、学校現場では行動の慎重さや見極めを迫られる場面が多々あり、「挑戦と応戦」の研究推進でした。研究仮説の検証のため、職員・生徒は一丸となってできる教育活動に全力で2年間取り組みました。場当たりの研究ではなく、「持続可能な教育活動を！」が研究の根底にあり、大切な視点としました。

予測困難で急激に変化していく社会を切り拓いていくには、身に付けた知識・技能の活用、必要な情報を取り出して自分の考えを構成し発信する力、変化をチャンスに変え、多様な価値観をもつ人々との協働により、新たな価値を創造していく力が求められており、それらの育成は急務といえます。さらに、生徒が「確かな学力」を能動的に身に付けるためにも、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進も求められています。そして、生徒が自らの可能性を最大限に発揮し、協働や対話をもとに一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成し、自らの生き方を模索することは、キャリア教育の大きな役割となります。

「いつでもそばにある ぼくの大事なふるさと」—これは、生徒たちが歌詞に託したふるさとへの熱き思いです。「ふるさと大島」を心に刻み、地域の方々への感謝の気持ちを大切にしながら、これから人生のキャリアを積んでいくものと信じています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり多大なご尽力とご指導をいただきました長崎県教育委員会、平戸市教育委員会の皆様、そして本校を支えてくださった大島村の皆様や保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年12月16日

平戸市立大島中学校

校長 赤塚 竜造

1. 研究の概要

(1) 研究主題

『ふるさと大島を担う実践力の育成』

～他者との協働を通して、ふるさとのために行動し、主体的に未来を切り拓こうとする生徒の育成～

(2) 研究主題設定の理由

(地域の実態)

本校のある的山大島は、平戸市街から約15kmの沖合に位置し、豊かな自然に囲まれた島である。島内の人口は約1000人、半数以上が65歳の高齢者と、年々少子高齢化が進んでいる。主な産業は第一次産業であり、水稻、葉タバコ、畜産、水産業が盛んである。

地域や保護者は学校に協力的であり、島全体で子どもたちを育てようという意識が強い。令和元(平成31)年度より、平戸市からコミュニティ・スクールの指定を受け、大島村公民館が地域コーディネーターとして活動し、様々な学社融合事業が行われてきた。「ふるさとを愛し、支える大島っ子」の育成を目指し各団体の協力を得て、生徒たちは総合的な学習の時間を中心としてふるさと大島について学んでいる。しかし、現状としては、地域の人的資源が限られていたり、高齢化が進んでいたりすることが課題となっている。

(生徒の実態)

本校は島の中央にあり、全校生徒17名(令和3年度15名)のへき地2級地の学校である。学校全体の雰囲気は活気に溢れ、生徒は様々な活動に積極的に取り組んでいる。生徒は素直で明るく、何事にも協力的で労を惜しまない。全校合唱、リズムダンス、人権学習など、全校生徒が一緒になって行う活動が多く、全国小中学校リズムダンスふれあいコンクールには8年連続で長崎県代表として出場しており、文部科学大臣賞(優勝)を3度、準優勝を4度受賞している。生徒たちが各方面で活躍する姿を地域の方は非常に楽しみにされており、生徒自身もそれを励みにしている。生徒たちのあらゆる活動については、生徒から選出した実行委員が中心となって企画・運営することで、主体的・協働的な学びとなっている。中学校卒業後は島外の高校へ進学し、島を離れて生活する者が多いことから、早い段階で自立した生活ができるようになることを念頭に置いて指導をしている。

本研究を進めるにあたって、令和3年4月に全校生徒15名に対して行った、ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業事前アンケートの結果や普段の生活の様子から、次の①～③の力が十分に身に付いていないことがわかった。

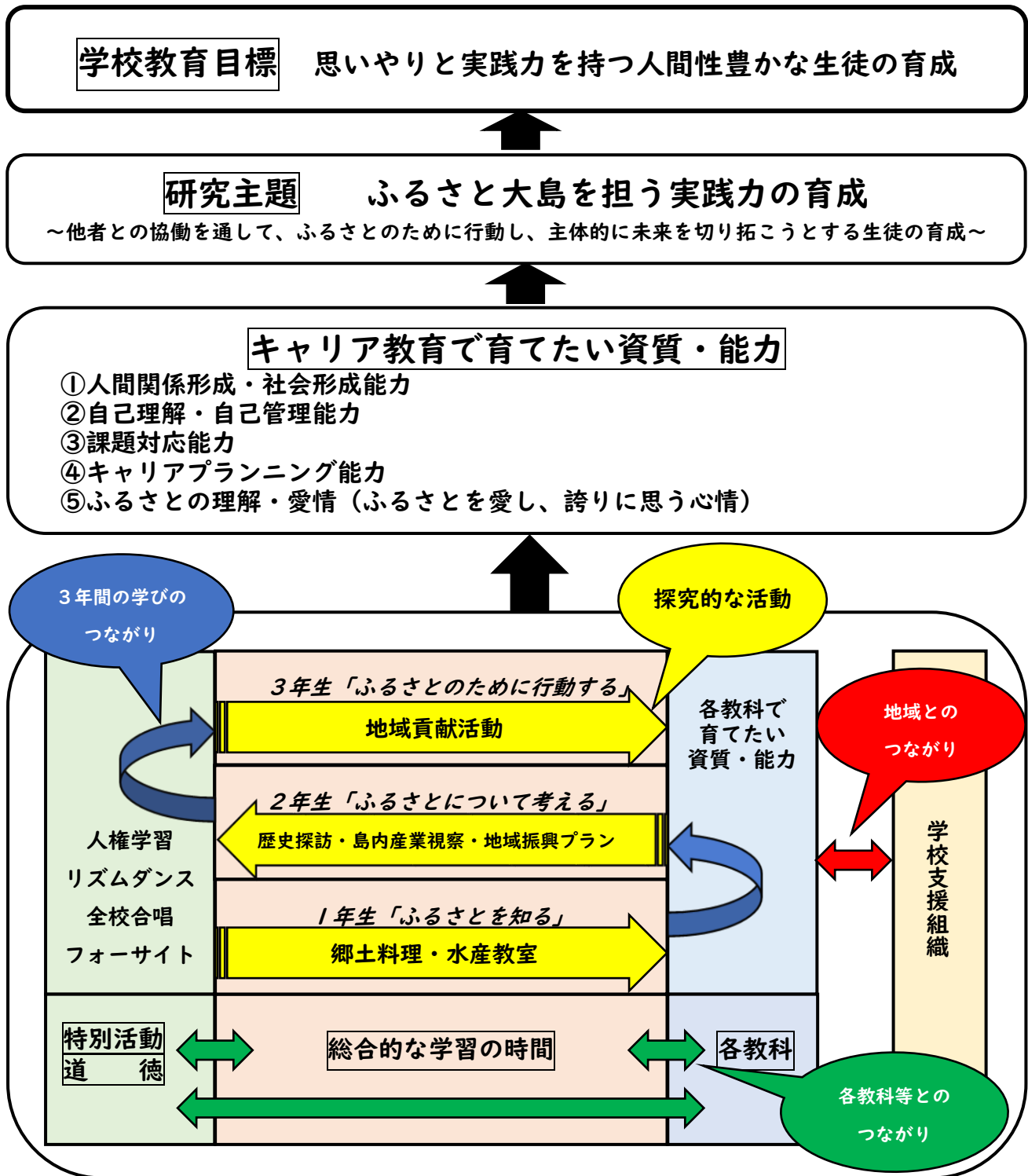
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① ふるさとのために自分にできることを考え、行動する力(ふるさとへの理解・愛情)② 自らの生活や将来設計に課題意識を持ち、様々な意見や情報をまとめ、計画的に解決に向かう力
(課題対応能力)③ 様々な体験での学びを自己の生き方に繋げて考える力(キャリアプランニング能力) |
|--|

この背景には様々な面があると思われるが、これまで本校が総合的な学習の時間に行ってきたふるさと教育は、体験的学習が中心となっており、探究的な学びや、生徒自身がふるさとの課題や自分の将来に当事者意識をもつような取組が十分ではなかったことが課題として浮かび上がってきた。そこで、研究仮説を次のように設定した。

(3) 研究仮説

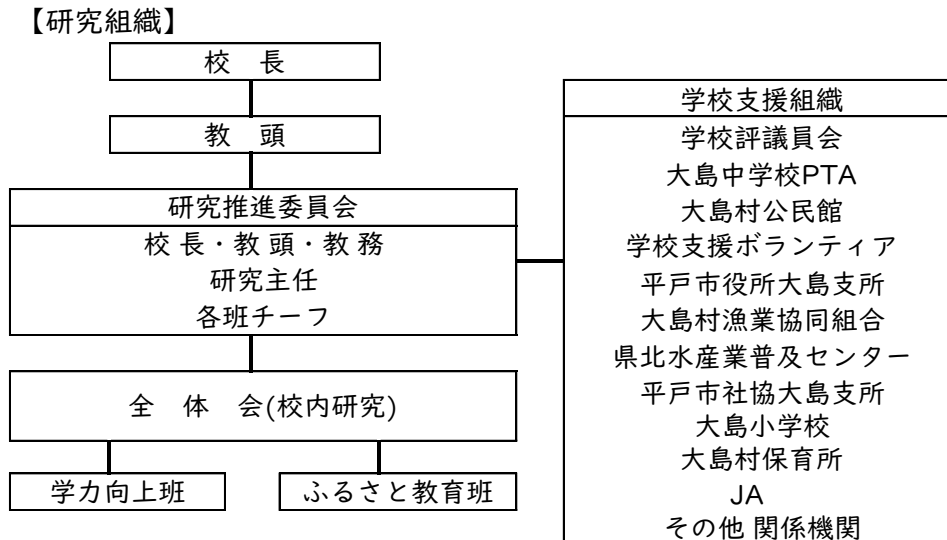
各教科等の学習と関連付けながら、地域人材を活用するとともに、地域の一員として、他者との協働を図り、ふるさとが抱える課題を主体的に考え解決するための探究的な活動を実践すれば、未来を切り拓こうとする生徒を育成することができるであろう。

(4) 研究構想図（令和4年度）



(5) 研究組織

校内研究組織の中に「ふるさと教育班」を設置する。担当を中心に全職員と学校支援組織が協力して本研究に取り組む。



2 研究の内容

(1) 1年目の取組の概要

研究主題 「ふるさと大島を担う実践力の育成～地域との協働を通して～」

①ふるさと教育カリキュラムの改訂

本校がこれまで大島村公民館を地域コーディネーターとして行ってきたふるさと教育を、3年間の繋がりのあるものにするために、各学年のテーマを設定した。1年生を「ふるさとを知る」、2年生を「ふるさとについて考える」、3年生を「ふるさとのために行動する」とし、活動内容もテーマに合わせて学年間の入れ替えを行った。また、2年生で実施していた職場体験活動（平戸市内各所）を地域振興プラン作成に変え、学習したことを生かしてふるさと大島のために自分たちにできることを考えさせるようにした。

【本校におけるふるさと教育】（活動の詳細は別冊資料参照）

学年	R2年度まで	R3年度 活動内容
1年生	地域貢献活動 水産教室	テーマ「ふるさとを知る」 【計31時間】 郷土料理教室 水産教室 平戸市内研修
2年生	郷土料理教室 職場体験 (平戸市内各事業所)	テーマ「ふるさとについて考える」 【計37時間】 島内産業視察 講話（地元起業家・大島支所・平戸市役所） 先進校との交流（世知原中学校） 平戸市内研修 地域振興プラン作成
3年生	歴史探訪 修学旅行	テーマ「ふるさとのために行動する」 【計34時間】 歴史探訪 修学旅行 地域貢献活動

②成果と課題

成果

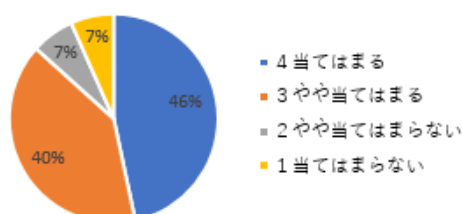
- これまでの取組を生かし、1年生「ふるさとを知る」、2年生「ふるさとについて考える」、3年生「ふるさとのために行動する」という3年間の見通しを持ったカリキュラムを作ることができた。全校生徒で課題の共通理解を行い、その後各学年の取組を実施し、最後にまた全学年で振り返りを行うという1年間の流れができた。
- 全ての活動を行うにあたって、地域の協力団体と綿密な打ち合わせを行った。本研究の目的や学校の思い、または地域の方々の生徒たちへの思いを確認することで、より意味のある活動を行うことができた。
- ただの体験活動にならないよう、課題を見つけ、それを解決するために何ができるかという視点から活動を進めた。教師側から生徒に何をするかを提示することはせず、生徒から何ができるかを引き出すような進め方を行った。
- コロナ渦の中、直接人と関わる活動がかなり制限されたものの、オンライン上での交流を行うなど、新たな実践を行うことができた。
- タブレット端末を活用することで、生徒が同時にスライドを作成したり、各自で動画や写真の撮影をしたりするなどICTの活用能力が高まった。

【ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業事後アンケート結果より】

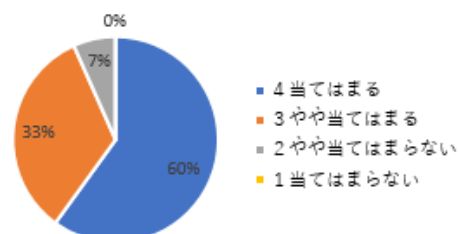
(令和3年10月実施)

- これまで以上にふるさとを愛し、支える心情の高まりが見られた。
- 仲間と協力して課題を見つけ、それを解決するための方法を考え、修正を加えながら実践する力が身に付いた。

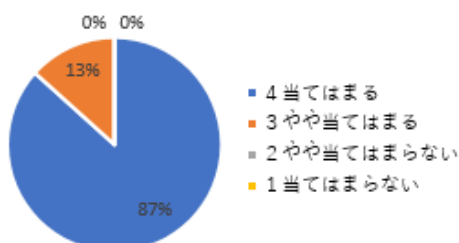
将来、大人になったとき、ふるさとのために
役立つことをしたいと思う気持ちが強くなった。



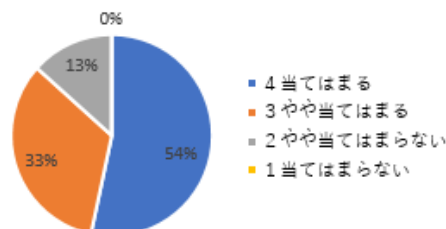
自分たちが住む地域や学校のために、自分ができ
ることを考えるようになった。または、考えている。



自分たちが住む地域のよさを、前よりも多く
紹介できる。



やってみてうまくいかないときは、その原因を
考え、計画を修正して行動することができる。



【全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果より】 (令和4年4月実施)

- 「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関する以下の質問について、長崎県・全国と比較しても、非常に良い結果が出ており、本校の取組の方向性や内容が生徒の力につながっていることがわかった。

(1：当てはまる 2：どちらかといえば当てはまる 3：どちらかといえば当てはまらない 4：当てはまらない)

質問番号17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	85.7	0.0	14.3	0.0
長崎県	27.0	49.6	19.7	3.7
全国	31.4	45.5	18.6	4.3

質問番号20	家では自分で計画を立てて勉強をしていますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	42.9	42.9	14.3	0.0
長崎県	13.1	45.5	31.2	10.2
全国	15.4	43.1	29.6	11.8

質問番号30	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	28.6	42.9	28.6	0.0
長崎県	12.3	35.6	36.6	16.0
全国	11.1	29.6	36.5	22.6

質問番号38	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	71.4	0.0	28.6	0.0
長崎県	20.7	39.1	26.7	11.8
全国	22.5	40.8	23.8	10.4

質問番号39	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	71.4	28.6	0.0	0.0
長崎県	27.4	50.1	19.3	3.1
全国	31.2	48.0	17.2	3.5

質問番号40	1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	42.9	28.6	14.3	14.3
長崎県	18.2	47.3	29.2	5.2
全国	22.0	45.4	26.6	5.9

質問番号 4 3	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	71.4	28.6	0.0	0.0
長崎県	32.3	46.5	16.2	4.2
全国	34.1	44.6	15.1	4.6

質問番号 4 5	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	57.1	28.6	14.3	0.0
長崎県	35.6	44.4	16.3	3.6
全国	28.4	43.7	21.6	6.2

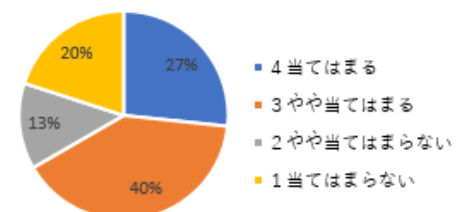
【生徒の感想より】

- ・大島や平戸のことを知ったつもりでいたけど、知らないことがたくさんあったので、ふるさとのことをもっと知れたのでよかった。
- ・周りを見る力がついた。この学びを通じて、「これはこうなんじゃないか」「こうしたらどうだろう」など考える力がついた。適当に考えて終わるのではなく、しっかり考えて行動する力もついた。
- ・平戸の現状や昔の状況を知ること、みんなで協力していろいろなことをすれば、これからの未来で成功していけると思い始めた。
- ・電話で依頼をしたときにロボットのような話し方をしていた。もっと自分の思いを伝えられるようになりたい。自分の夢が人の役に立ちたいだけでなく、笑顔にしたいので、コミュニケーションをしっかりと取れることもこれからは重要になってくるので、もっと上手にできるようになりたい。
- ・見えている課題に対して今まで行動したことがなかったけど、初めてここまで大島に貢献しようと考えた行動ができた。

課題

- 活動内容が多岐に渡ったため、標準時数を大きく超えたり、昼休みや放課後を使っての活動も多かった。持続可能なものにするためにも、内容の精選が必要である。
- 全体的に課題対応能力の育成につながるような活動が多かったため、生徒が自分の進路と関連させて考える機会が少なかった。様々な業種の方と触れ合う機会をもち、それぞれの人の考えに触れることができたものの、それを自分の将来と繋げて考えることが生徒にとって 難しかった。
- ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業事後アンケート結果において、右の質問に対する回答が、他の回答に比べると大きな伸びが見られなかった。全国学力・学習状況調査質問紙の次の結果においても、他の質問が県や全国を大きく上回る結果だったのに対し、次の質問については同等の結果となっている。

自分が将来働く理由についての考えが増えた。



〔ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア実践事業の結果より〕（令和3年10月）

質問番号 9	将来の夢や目標を持っていますか。			
選択肢	1	2	3	4
大島中	42.9	28.6	14.3	14.3
長崎県	41.3	28.2	18.5	12.0
全国	39.8	27.5	19.1	13.4

(2) 2年目の取組の概要

研究主題 ふるさと大島を担う実践力の育成

～他者との協働を通して、ふるさとのために行動し、主体的に未来を切り拓こうとする生徒～

①主題の見直し

キャリア教育で育成を目指す資質・能力を明確にし、特に本校生徒の課題であった「ふるさとへの理解・愛情」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を重視した主題とした。

【本校のキャリア教育で育成を目指す資質・能力（基礎的・汎用的能力）】

人間関係形成・ 社会形成能力	○自他のよさに気付き、自ら進んで豊かな人間関係を築こうとする。 ○他者の立場や考えを尊重し、学校生活、社会生活に意欲的に取り組む。
自己理解・ 自己管理能力	○自分の個性や適性に関心を持ち、自分らしさを発揮しようとする。 ○自己の適性に応じた職業について考え、将来の生き方に関心をもつ。
課題対応能力	○自らの生活や将来設計に向けて主体的に課題意識をもつ。 ○課題を解決するために計画を立て、粘り強く行動する。
キャリア プランニング能力	○学んでいることを将来に生かそうとする。 ○自分の将来に向けて、今自分にできることを考え、行動する。

②活動内容の精選

系統立てた学習の流れは継続しつつも、持続可能な取組とするために、活動内容の精選を行った。引き続き大島村公民館を地域コーディネーターとし、地域や家庭と連携した3年間の繋がりをもったふるさと教育の学習プログラムは継続し、テーマを1年生「ふるさとを知る」、2年生「ふるさとについて考える」、3年生「ふるさとのために行動する」、とする系統立てた学習とした。また最初のオリエンテーションと最後の振り返りは全学年で行い、課題や各学年での学びを共有し、次年度の学習に生かすことができるようにした。

さらに、総合的な学習の時間と各教科や特別活動との連携をより密にし、教科横断的な取組を行うことで、より充実させた探究的な学習活動やキャリア教育を実施した。これにより、学校教育活動全体において「他者との協働を通して、ふるさとのために行動し、主体的に未来を切り拓こうとする生徒」の育成に努めた。

【本校におけるふるさと教育】（活動の詳細は別冊資料参照）

実施内容 各学年テーマ	令和3年度	令和4年度
1年生 「ふるさとを知る」	郷土料理教室 水産教室 平戸市内研修 【計31時間】	郷土料理教室 水産教室 【計20時間】
2年生 「ふるさとについて考える」	島内産業視察 講話 （地元起業家・大島支所 平戸市役所） 先進校との交流 （世知原中学校） 平戸市内研修 地域振興プラン作成 【計37時間】	歴史探訪 島内産業視察 講話（平戸市役所） 地域振興プラン作成 【計34時間】
3年生 「ふるさとのために行動する」	歴史探訪 修学旅行 地域貢献活動 （パンフレット・郷土デザイン ビニール袋作成、及び島内外に おける広報活動） 【計34時間】	地域貢献活動 （大島のPR動画・パンフレット作成及 び、島内外における広報活動） 修学旅行 【計33時間】

【1年間の流れ】

実施時期	総合的な学習の時間	各教科・特別活動
4月28日	全学年オリエンテーション	
5月～10月	各学年の取組実施 （主にふるさと教育関係）	キャリア教育の視点に基づく授業実践 人権学習（各学期）
10月	学習発表会	
12月	全学年振り返り	

③探究的な活動を重視

地域の協力を得ながら実施してきた体験活動を基に、より探究の過程を意識した学習を設定した。探究的な活動を行うにあたっては、各教科で身に付けた資質、能力を活用、発揮する学習場面を生み出すような過程を充実させた。様々な体験活動で地域や社会で働く人と関わることで、生徒に自分らしい役割の果たし方や生き方を考える機会をもたせ、本校の課題である「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の向上を図る。

【1年生の実践】

テーマ「ふるさとを知る」	
① 課題の設定	体験や講話を通して、大島の魅力や課題は何か考える。
② 情報の収集	郷土料理教室・水産教室
③ 整理・分析	学習した内容を整理する。
④ まとめ・表現	学習発表会で発表する。
⑤ 振り返り	1年間の学びを振り返り、次年度につなげる。

【2年生の実践】

テーマ「ふるさとについて考える」	
① 課題の設定	1年生で学習したことをもとに、課題を設定する。
② 情報の収集	歴史探訪・島内産業視察・講話
③ 整理・分析	学習した内容を整理し、ふるさと大島に貢献できるプランを考える。
④ まとめ・表現	考えたプランを学習発表会で発表する。 プランに対して地域の方から意見をもらう。その後、③に戻り、プランを練り直す。 練り直したプランを再度1、3年生や外部に向けてプレゼンテーションする。
⑤ 振り返り	1年間の学びを振り返り、次年度につなげる。

【3年生の実践】

テーマ「ふるさとのために行動する」	
① 課題の設定	2年生で考えたプランを実行するための計画を立てる。
② 情報の収集	PR動画・パンフレット作成
③ 整理・分析	作成した動画やパンフレットの見直し
④ まとめ・表現	学習発表会や、島内外の様々な場所（修学旅行先も含む）で成果物を広く発表する。 実践した結果の検証を行う。検証することで得た学びを1、2年生に伝える。
⑤ 振り返り	中学校3年間の学びを生かし、主体的に未来を切り拓こうとする意識を高める。

④各教科等との関連

総合的な学習の時間だけではなく各教科や特別活動などとの連携を重視する。例えば、美術科の郷土の魅力を伝えるデザイン学習に、国語科の書写の作品を取り入れて構成し、できあがったデザイン（シール等）を広報活動に活用する。生徒会活動として行っている「ふれ愛メッセージ」（地域のお年寄りに手紙を送る活動）では、美術の時間に制作した大島産の魚の絵を便箋にして活用する。社会科においても、社会の在り方と自分の生き方を重ねて考える機会を持ち、総合的な学習の時間での学びと関連させる。

また、あらゆる活動においてフォーサイト（生徒1人1人が所持するスケジュール帳）を活用し、主体的に学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら新たな意欲へつなげる力を育成する。

【各教科・特別活動】

- ◇各教科・・・美術科における郷土デザイン学習と国語科における書道のコラボレーション、社会科におけるキャリアデザイン学習や地域学習、保健体育科におけるリズムダンスを通じた生涯スポーツの確立、英語科における地域アピール動画等
- ◇学級活動・・・フォーサイト、キャリアパスポートの活用。年間を通じた人権学習等
- ◇生徒会活動・・・地域貢献活動（7・12月のふれ愛メッセージ、福祉施設訪問等）

【キャリア教育の視点から各教科等で身に付けさせたい資質・能力の中で特に教師が意識した力】

教科	大島中の生徒に身に付けさせたい資質・能力	学年	単元名
国語	自分の思いや考えを視覚化して整理し、多角的に検討・分析することで説得力ある表現をする力	1年	情報を整理して書こう 話題や展開を捉えて話し合おう
		2年	情報整理のレッスンー思考の視覚化 立場を尊重して話し合おうー討論で多角的に検討する
		3年	思考のレッスンー具体化・抽象化 合意形成に向けて話し合おうー課題解決のために会議を開く
社会	ふるさとの特色や課題などを、多面的・多角的に考察し、公正に判断し、それらを説明したり、議論したりする力	1年	地域調査の手法
		2年	地域の在り方
		3年	地方自治と私たち
数学	様々な情報を分析し、根拠を明らかにしたまとめや説明を行う力	1年	データの分析と活用
		2年	平行と合同 三角形と四角形 データの比較
		3年	相似な図形 円 標本調査
理科	結果を分析・解釈する力	1年	生物の世界 物質のすがた
		2年	化学変化と原子・分子 生物の体のつくりとはたらき
		3年	運動とエネルギー 生命のつながり
音楽	感じたことや考えを表現豊かに伝える力	1年	自分なりに考え表現する
		2年	根拠を持って考え表現する
		3年	曲を理解し、表現を工夫する
		全学年	総合と連携し、相手に伝わる合唱をする

美術	ふるさとの課題や魅力を基に、デザインを行い発信する力	1年	形や色彩の工夫で楽しく伝える イメージを形や色彩で伝える
		2年	写真で対象の魅力をとらえる イメージの力で伝える
		3年	映像を使って情報を伝える 中身や気持ちを工夫して表す 快適な道を考え、表す
保体	自己や仲間の良いところや課題を発見し、生涯にわたって体力の向上や健康の維持を図り、豊かなスポーツライフを継続する力	1年	実技や保健学習（健康と病気の発生要因）
		2年	実技や保健学習（生活習慣病）
		3年	球技を中心とした単元
技術分野	栽培や木材の加工など設計する力および情報を発信する力	1年	木材加工と作物の育成
		2年	ネットワークの仕組み
		3年	情報の技術
家庭分野	自分や家族の衣食住の課題を見つけ、その課題を解決するための計画を立てて実践する力	1年	地域の食文化を知ろう
		2年	衣服の手入れをしよう
		3年	家庭生活と地域との関わりを考えよう
英語	場面や状況に応じて、自分の考えを伝える力	1年	考えを整理し表現しよう 私が選んだ1枚
		2年	説得力のある主張をしよう この1年で得た宝物
		3年	ディスカッションをしよう あなたの街を世界にPRしよう
学活	学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら新たな意欲へつなげる力 自分らしさに気づき自分が好きだと思える力 コミュニケーション能力をもち自分を出し 仲間の言動に向き合える力	1年	将来の夢や希望
		2年	なぜ働くのか 働く人にインタビュー 様々な職業の適性を考えよう
		3年	自分の生き方について今の考えを整理しよう
		全学年	日々のフォーサイトの活用 キャリアパスポートの活用 年間を通した人権学習

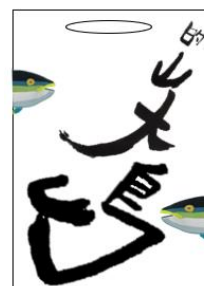
【美術科と国語科における郷土デザイン学習】

美術科の「デザイン 中身や気持ちを工夫して表す」の学習では大島を発信するためにシールのデザイン制作を行った。大島のイメージをデザイン画にするとともに文字についても考えさせた。パソコンの文字を活用することや自分でレタリングすることに加え、毛筆の味わいを活かすことも選択肢の一つに加えた。国語科の「身近にある文字を調べよう」の時間に身の回りの文字が、それぞれどのような目的で、どのように工夫して描かれているかを考え、美術のデザインに取り入れる視点で実際に書いた。イラストと文字をパソコンに取り込み、デザインを完成させた。



大島の魚をPRするシールのデザイン（イラスト）

時数	学習内容
1	大島の魚をスケッチする。
2	大島PRの方法を考える。アイデアスケッチに入る。
3	アイデアスケッチをする。
1（国）	自分のイメージに合わせて毛筆で書く。
4・5	着色する。
6・7	パソコンでシールデザインを構成する。
8	発展として、包装紙やビニール袋のデザインを考える。



【音楽科における大島の歌制作】



2年生が作詞、3年生が作曲を行った。タブレット端末を活用しながら、何度も試行錯誤を重ね、1人4小節のフレーズを作曲し、それを繋ぎ合わせて1つの曲を作った。

でき上がった歌は、学習発表会や福祉施設訪問や地域の祭りで披露した。また、3年生が作成している大島をPRする動画にも、BGMとして活用した。また、曲名は生徒から公募したものの中から学習発表会で地域の方に投票していただき決定した。

時数	学習内容
1	大島の歌プロジェクト① 和音に合わせてもとの旋律をつくろう
2	大島の歌プロジェクト② それぞれの旋律を完成させよう
3	大島の歌プロジェクト③ 旋律を手直ししよう 完成した旋律を自分たちで歌い、最終的な手直しを行う

【英語科における地域 PR 動画制作】

総合的な学習の時間に3年生が行っている大島 PR 動画作成と英語科におけるコラボレーションを行った。動画作成を進める過程で、生徒たちから「外国人向けの動画も作りたい」という意見が出たことから、平戸市の ALT と国際交流員の協力を得て、外国人向けの動画作成に取り組んだ。生徒は試行錯誤をしながら、英語での撮影に取り組んだ。

時数	学習内容
1	Sunshine 3年 Our Project8 「あなたの街を世界に PR しよう」 モデル動画をもとに、必要な表現を理解する。
2	すでに作成済の動画絵コンテを英語にする。
3	作成した絵コンテを使って ALT に活動の説明をし、セリフやジェスチャー等の指導を受ける。リハーサルや撮影準備を行う。
4・5	ALT、国際交流員と一緒に撮影を行う。



【フォーサイトの活用】

いわゆる「生活のノート」のことである。各学年に合わせた活用方法を身に付けることで、プランニング能力を高め、規則的な生活を送るとともに、家庭学習等の充実にもつなげる。各学年に合わせた活用方法は以下のとおりである。

学年	各学年に合わせた活用方法
1年生	1日の計画を立て、規則的な生活を送る。
2年生	1週間分の計画を立て、先を見通した生活を送る。
3年生	1ヵ月分の計画を立て、修正等を加えながら生活を送る。

学年の使い方に合わせて活用するとともに、先を見通して活動するために、生徒会活動や集会などの際には生徒自身が持参して記入する習慣を身に付けさせている。

別冊資料には、現3年生による実際の記入状況を表した写真を載せている。

(3) 研究の成果と課題

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業事前・事後アンケート結果

(4…当てはまる 3…やや当てはまる 2…やや当てはまらない 1…当てはまらない)

R3.事前アンケート (4月実施)

(全校生徒15名)

設問	項目	4	3	2	1	計
1	相手の気持ちや考えを大切に話し合えることができる。	8	7	0	0	15
2	みんなでアイデアを出し合って、会や行事を企画・運営することができる。	9	5	1	0	15
3	難しいと思うことでも、実現をめざして行動することができる。	8	7	0	0	15
4	自分の適性(自分の性格や得意、不得意など)に合った職業を言うことができる。	9	5	1	0	15
5	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	8	5	1	1	15
6	様々な情報の中から自分が伝えたいことを探して、まとめや発表に利用することができる。	5	6	2	2	15
7	自分たちが住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。	6	5	3	1	15
8	自分が将来働く理由を言うことができる。	7	6	1	1	15
9	自分たちが住む地域のよさを紹介できる。	10	1	4	0	15
10	将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う。	5	6	4	0	15

R3.事後アンケート (10月実施)

設問	項目	4	3	2	1	計
1	以前よりも様々な人とのコミュニケーションに抵抗がなくなった。	4	6	4	1	15
2	仲間と協力して課題を解決できるようになった。	11	3	1	0	15
3	新しいことに挑戦してみようという気持ちが高まった。	10	2	3	0	15
4	自分の適性(自分の性格や得意、不得意など)に合った職業を前より多く言うことができる。	3	7	2	3	15
5	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	8	5	2	0	15
6	前よりも自分が伝えたいことをうまく伝えられるようになった。	7	7	1	0	15
7	自分たちが住む地域や学校のために、自分ができることを考えるようになった。または、考えている。	9	5	1	0	15
8	自分が将来働く理由についての考えが広がった。	4	6	2	3	15
9	自分たちが住む地域のよさを、前よりも多く紹介できる。	13	2	0	0	15
10	将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う気持ちが強くなった。	7	6	1	1	15

R4.事前アンケート（４月実施）

（全校生徒１７名）

設問	項目	4	3	2	1	計
1	相手の気持ちや考えを大切に話し合えることができる。	5	12	0	0	17
2	みんなでアイデアを出し合って、会や行事を企画・運営することができる。	6	9	2	0	17
3	難しいと思うことでも、実現をめざして行動することができる。	11	6	0	0	17
4	自分の適性（自分の性格や得意、不得意など）に合った職業を言うことができる。	7	7	3	0	17
5	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	6	11	0	0	17
6	様々な情報の中から自分が伝えたいことを探して、まとめや発表に利用することができる。	8	9	0	0	17
7	自分たちが住む地域や学校のために、今、自分ができることを考えて行動することができる。	7	7	3	0	17
8	自分が将来働く理由を言うことができる。	8	5	2	2	17
9	自分たちが住む地域のよさを紹介できる。	8	8	1	0	17
10	将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う。	6	11	0	0	17

R4.事後アンケート（10月実施）

設問	項目	4	3	2	1	計
1	前よりも相手の気持ちや考えを大切に話し合えるようになった。	9	8	0	0	17
2	前よりも仲間と協力して課題の解決に向けて努力することができるようになった。	11	6	0	0	17
3	前よりも新しいことに挑戦してみようという気持ちが高まった。	11	3	3	0	17
4	前よりも自分の適性（自分の性格や得意、不得意など）に合った職業を前より多く言うことができる。	4	8	4	1	17
5	前よりもやってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	6	8	3	0	17
6	前よりも自分が伝えたいことをうまく伝えられるようになった。	7	6	4	0	17
7	前よりも自分たちが住む地域や学校のために、自分ができることを考えるようになった。または、考えている。	8	6	3	0	17
8	前よりも自分が将来働く理由についての考えが増えた。	4	8	5	0	17
9	前よりも自分たちが住む地域のよさを、多く紹介できる。	11	6	0	0	17
10	前よりも将来、大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う気持ちが強くなった。	6	9	2	0	17
11	前よりも総合や各教科で学んだことを、将来に生かそうと思うようになった。	7	9	1	0	17
12	前よりも将来に向けて、今自分が頑張らなければならないこと（勉強や人との関わりなど）がわかった。	12	5	0	0	17

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業事後アンケート結果からの検証
 (4…当てはまる 3…やや当てはまる 2…やや当てはまらない 1…当てはまらない)

※ () は昨年度、該当学年による活動の事後評価です。

①ふるさとのために自分にできることを考え、行動する力（ふるさとへの理解・愛情）					
設問	項目	1年生	2年生	3年生	全体
7	自分たちが住む地域のために、自分ができることを考えられるようになった。または考えている。	2.9	4.0 (3.0)	3.4 (3.7)	3.3
9	自分たちが住む地域の良さを前よりも多く紹介できる。	3.7	4.0 (3.7)	3.4 (3.9)	3.6
10	将来大人になったとき、ふるさとのために役立つことをしたいと思う気持ちが強くなった。	3.1	3.7 (3.7)	3.1 (2.9)	3.2

(成果) 生徒のふるさとへの愛情や、ふるさとに貢献しようとする心情が高まった。系統立てた活動にしたことで、活動に応じた生徒の意識の高まりが見られた。1年生は地域の良さを以前より多く紹介できるようになった。2・3年生は、積極的に地域に貢献しようとする意識が高まった。

【生徒の感想】

- 教室と郷土料理教室で丁寧に教えてもらったことを通して、島民の方々が郷土のことを大切にしていることがわかった。これからこの郷土大島の良さを広めていきたいです。そのためにインターネットなどを活用して大島のことを広めていきたいです。
- 活動をしていくなかで、もっと大島のことを知ってもらいたいし、自分たちも知っていきたくて思ったし、これからは私たちの考えをもっと大人の人に伝えていけたらなあと思いました。
- 故郷に貢献することに対して最初は何をすればいいか、本当にこのプランでうまくいくのかなど不安と心配でいっぱいだったけど島内や島外にパンフレット、PR動画を持っていった時、たくさんの方々から感謝の言葉とともに、自分たちが作ったものに対してお褒めの言葉を頂き、故郷に貢献するために努力してきて良かったと達成感がわきました。

②自らの生活や将来設計に課題意識を持ち、様々な意見や情報をまとめ、計画的に解決に向かう力（課題対応能力）					
設問	項目	1年生	2年生	3年生	全体
5	やってみてうまくいかないときは、その原因を考え、計画を修正して行動することができる。	2.9	3.3 (3.0)	3.4 (3.4)	3.2
6	自分が伝えたいことをうまく伝えられるようになった。	3.0	3.0 (3.0)	3.4 (3.6)	3.2

(成果) 2・3年生は、ふるさとの課題解決のために、仲間と協力しながら努力する力が身に付いた。生徒が主体となった活動を通して、周囲からの協力を得たり、失敗や挫折を経験したりしながら、自分たちで何かを実現する喜びややりがいを感じる生徒が増えた。

(課題) 1年生は課題を解決する活動が少なかったため、大きな意識の変化は見られなかった。

【生徒の感想】

- 平戸市や大島の魅力と課題を知ることができました。そこから、私達の大島をどのように活性化させていくか全員で話し合い、課題を改善しながら魅力を発信していきました。主観だけでなく客観的な意見を取り入れ、たくさんの方の工夫をして取り組むことができました。
- たくさんの方の場所でパンフレットについての感想をうかがって、どうしたら伝わるのか前以上に考えることができました。
- パンフレットなどを渡すときには敬語など自分が苦手としているものでも頑張ったり、自分はコミュニケーションが得意なので積極的に話したりなど自分に自信を持つことができ、とても自分のためになる活動だったと思いました。

③様々な体験での学びを自己の生き方に繋げて考える力（キャリアプランニング能力）					
設問	項目	1年生	2年生	3年生	全体
7	自分たちが住む地域のために、自分ができることを考えられるようになった。または考えている。	2.9	4.0 (3.0)	3.4 (3.7)	3.3
8	自分が将来働く理由についての考えが増えた。	2.4	3.7 (3.3)	3.1 (2.4)	2.9
11	総合や各教科で学んだことを、将来に生かそうと思うようになった。	3.1	3.7	3.4	3.4
12	将来に向けて、今自分が頑張らなければならないこと（勉強や人との関わりなど）がわかった。	3.7	3.7	3.7	3.7

（成果）生徒は地域のためにできることを考え、実際に行動したことで、社会の一員であることをより強く自覚し、将来自分が働くことに対しても前向きな気持ちを持つことができた。また、各教科で学んだことを総合的な学習の時間の活動に生かしたり、学習を通して、今自分がすべきことを見つけたりすることができていた。活動を通して、これから多くのことに挑戦したいという意欲も高めていた。

【生徒の感想】

○総合学習をとおして、大島のよさや課題などを考えたり、それを解決するプランを考えたりすることができました。社会で過疎地域の学習をしたときに学んだことをプランの参考にして、よりよいプランを作ることができました。また、電話対応をしてみて、人とのコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。私たちが考えたプランで島内外の人に大島の魅力を知ってもらえるといいです。

○自分のPR能力や、意見をまとめる能力などが身につきました。これらの能力を生かしてこれから様々なことに挑戦していきたいです。

○各教科の時間で自分たちには何ができるのかを考えて実現できたことが嬉しかったし、周りの方々から褒めていただいて作って良かったと感じました。

アンケートを実施しての本校の気づき

設問	項目	1年生	2年生	3年生	全体
4	自分の適性（性格や得意・不得意など）に合った職業を前より多く言うことができる。	2.3	4.0 (3.0)	3.0 (2.7)	2.9

昨年度から2，3年生は、進路学習や島内産業視察、地域の貢献活動を通して、様々な職業に触れたり、企業の方々から直接話を聞いたりする機会があった。しかし、研究を進めるにつれ、現段階で自己の適性に合った職業を生徒が見つかることの難しさを感じた。

本校の生徒には自己の適性を知ったり、職業についての興味の幅を広げたりする場面をより多く与える必要があると考えた。

2年間の取組の成果・・・「つながり」のある学びの実現

①学びのつながり

「ふるさとを知る」「ふるさとについて考える」「ふるさとのために行動する」という3年間の系統立てた学習が、充実した探究的な学びとなった。それぞれの学年で学んだことを次の学年での学びに繋げることで、質の高い学習となったり、学年が上がるにつれて新たな課題に出会ったりするなど、探究的な学びを発展的に繰り返す姿が多く見られた。また、学年ごとの活動のみでなく、活動の最初と最後に全学年での学びを共有する時間を作ることによって、多角的・多面的な考え方を持つことができ、より深い学びとなった。また、日頃の活動や学習発表会を見た小学生が、「将来飲食店を開きたいと思っていたけど、どのようにして店を開いていいかわからなかった。でも中学生の空き家を活用してカフェを開くという発表から、そういう方法があることを知って夢が膨らんだ。」という感想を述べるなど、中学生の取組が小学生にもよい影響を与えていた。

②教科等のつながり

総合的な学習の時間と、各教科等との連携が効果的だった。総合的な学習の時間や各教科の時数はそれぞれ限られているが、互いに連携することで、より充実した学習となった。また、生徒が各教科で身に付けた知識や技能を総合的な学習の時間で活用する場面を多く作り、教科横断的な学習ができた。生徒を主体とした探究的な活動であることから、活動の途中で新たな各教科との関わりが見えてくることがあったが、常に教職員同士で対話や情報交換ができていたことで適切な指導ができた。全教職員で協力し続けられたことは、大きな成果だった。

③地域とのつながり

地域とのつながりがより強くなった。以前から大島村公民館を地域コーディネーターとして様々なふるさと教育を行ってきたが、今回新たに始めた島内産業視察や地域貢献活動を通じて、地域で働く大人と直接交流する機会がさらに増えた。生徒の活動に島内外の企業からの協力を得ることができたり、生徒自身が作成した大島をPRするグッズやポスターで地域に貢献したりするなど、双方にとってプラスとなった。これまでは、地域から学ぶことが中心となっていたが、今回、地域に貢献する活動に取り組んだことで、生徒自身は自分たちの活動に寄せられる地域からの声に大きな喜びを感じ、さらに地域に貢献したいという意欲を高めていた。

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業地域・保護者アンケート結果より（33人）

（令和4年10月実施）

（4…当てはまる 3…やや当てはまる 2…やや当てはまらない 1…当てはまらない）

設問	項目	4	3	2	1
1	この学習は、地域の活性化につながった。	23人	10人	0人	0人
2	この学習は、子ども達が地域の良さや地域の産業を新たな視点で捉える機会となった。	30人	3人	0人	0人
3	この学習によって学校と地域の結びつきが強くなった。	27人	5人	1人	0人

【地域・保護者の意見】

- 地域のこと、大島のこと、この先のことを考えている子どもたちの思いを知ることができた。大人がそれをサポートし、先へつなげられる一歩になると思った。
- 地元大島の仕事に関わって、地域の人々の暮らし、苦勞にも触れることができて良い経験になっていると思う。
- こんなにも島の未来を考えている中学生がいることを知り、この数年をかけた取組や思いを大人も引き継いでいけたらいい。

2年間の取組の課題・・・持続可能な学びの実現のために

①地域と学校の相互の協働体制

地域と学校の協力体制を今後も継続することが大切である。本校は離島地区ということもあり、職員の入れ替わりが多い。かつ平戸市外を主勤地とする職員がほとんどである状況で、系統立てたふるさと教育を継続させるためには、大島村公民館を地域コーディネーターとした地域とのつながりは必要不可欠であり、今後も互いに連携をしながらふるさと教育を進めていく必要がある。

また、教師がその地域についてある程度知った上で指導しなければ、生徒の深い学びにはつながりにくいいため、地域に任せるばかりではなく、教師側の学びも必要である。

②活動時間の確保

学校外の体験的な活動は生徒にとって非常に意義のあるものだが、離島という土地柄、移動時間や天候、交通手段の問題が大きい。また、本校は、長年、年間を通した人権学習や全校合唱、リズムダンスコンクールへの参加など、少ない人数ながらも様々な活動を行っている。加えて、地域行事への参加や、福祉施設訪問など、準備から当日の活動に至るまで全ての活動を生徒を主体として取り組んでいるため、非常に多忙である。行事の精選もしなければならないが、地域の声によく耳を傾けながら進めていく必要がある。教師だけでなく、生徒も一人何役も担うような学校現場で、いかに授業時間内に充実した活動を継続できるかは、今後の課題である。

おわりに

本校では、令和3年度から県教育委員会の指定を受け「ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業」における研究を2年間進めてまいりました。どのような研究にするか職員で検討した際、先進校の実践のように起業体験を取り入れるのではなく、「大島村の特色を生かすことができるやり方で研究をしよう」と職員全員が一致団結し、研究主題に「ふるさと大島を担う実践力の育成」をかかげるとともに、大島村の強みである地域の教育力と、これまで積み重ねてきた教育課程を再構築し、教育課程全体を通したキャリア教育の充実に向けて歩みを進めてきました。

地域の教育力向上として、令和元年に平戸市教育委員会指定のもと、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入し、教育目標の実現に向けて、さらに強力な連携・協働体制を整備してきました。大島村は、人口減少、過疎化、少子高齢化などの課題が急激に進んでいます。しかし、その中にある学校教育に対する地域の協力や支援は色あせることなく現在に繋がっているのです。これこそ本校の強みであり、「社会に開かれた教育課程の実現」に欠かせないものであると考え、研究の軸としてきました。

教育課程の再構築として、長年にわたり地域との関わりを大切にしてきた総合的な学習の時間や学校行事をさらに精選し、学校と地域が「共育」する活動を推進してきました。よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と地域社会が共有し、「社会に開かれた教育課程」を目指してきましたのです。

校訓碑には、

『郷土を愛し 明るく素直で たくましく』

とあり、「ふるさとへの愛着と地域と共に」との思いが強く込められています。

教育課程全体を通したキャリア教育として、東井義雄の「村を捨てる学力」ではなく「村を育てる学力」を身に付けさせる、という考え方が思い起こされます。それは、「村をさえも見捨てず、愛し、育て得るような、主体性をもった学力なら、進学や就職だっのり越えるだろうし、たとえ失敗したところで、一生をだいなしにするような生き方はしないだろうし、村におれば村で、町におれば町で、その生れがいを発揮してくれるにちがいない」という考え方です。本校でも「主体的に考えさせること」「決定権を生徒に持たせること」を研究の中心においてきました。教師が決定し、主導していくことと比べて遙かに時間と根気強さが求められるものでした。2年間の研究は振り返ればあっという間でありましたが、生徒・教職員共に改めて大島村への思いを深くすることができました。

最後になりましたが、これまでご支援とご協力をいただいた関係者の皆様、懇切丁寧にご指導・ご助言をいただきました長崎県教育委員会、平戸市教育委員会の諸先生方に、深く感謝申し上げます、お礼の言葉に代えさせていただきます。

令和4年12月16日

平戸市立大島中学校

教頭 鴨川 峰幸

研究同人

令和3年度

校長	赤塚 竜造
教頭	船井 宏造
教諭	中尾 美和
	大財 暢子
	田尻 尚加
	錦戸 達郎
	三根祐太郎
	細川 遥菜
講師	永澤 萌香
養護助教諭	白石穂乃佳
栄養教諭	柴山絵里子
事務職員	高以良聖志
用務員	柳田 孝江
図書支援員	片山真依子
A L T	ジェームズ・ キース・ゴモラ ラフマン・アンヤ・ カトリーナ

令和4年度

校長	赤塚 竜造
教頭	鴨川 峰幸
教諭	中尾 美和
	福井 美香
	田尻 尚加
	錦戸 達郎
	三根祐太郎
	細川 遥菜
講師	前田 壮斗
講師	鴛淵 真
養護教諭	鶴羽 寿子
栄養教諭	柴山絵里子
事務職員	高以良聖志
用務員	柳田 孝江
図書支援員	片山真依子
A L T	ラフマン・アンヤ・ カトリーナ ファーズドン・ビク トリア・エマ



『大島の歌〜みんなのふるさと〜』

作詞・作曲 大島中学校生徒一同

一. 朝の光に 煌めく海 澄んだ空気に 潮風が香る

小さな宝箱 緑広がり 君と見た世界 思い出す

島が映し出す 素敵な世界 あの頃のぼくは 気づかなかった

どこまでも続く青空 どこまでも続く水平線

いつでもそばにある ぼくの大事なふるさと

二. オレンジ色に 輝く空 優しさと ぬくもりに満ちて

空いっぱい 星空の下 出会えた奇跡 ありがとう

島が映し出す 素敵な世界 こんなにもぼくは 素直になれる

どこまでも続く青空 どこまでも続く水平線

いつでもそばにある ぼくの大事なふるさと

美しい大島 大事なふるさと